

2012 年（平成 24 年）9 月 29 日（土）

西日本新聞

九州のベンチャー支援へ

西日本シティ銀行など北部九州の地銀4行と中小企業基盤整備機構は28日、ベンチャー企業や中小企業の事業展開を支援する投資ファンド「九州アントレプレナークラブファンド」を組成すると発表した。ファンド総額は約11億円。投資ファンド運営のドーガン・インベストメンツ（福岡市）が管理・運営する。九州の地銀が県境をまたいでベンチャー支援ファンドを組成するのは珍しい。

西シ銀、十八銀、筑邦銀、豊和銀が出資

中小機構が半額を出資し、残りを西シ銀のほか十八銀行（長崎市）▽筑邦銀行（福岡県久留米市）▽豊和銀行（大分市）が出す。各行ともベンチャーの支援育成を通じ、地域経済の活性化や資金需要の掘り起こしにつなげる狙いがある。

ドーガン社が運営するベンチャー支援ファンドとしては、中小機構、西シ銀、九電工（福岡市）が2006年に組成した

「チャレンジ九州・中小企業がんばれファンド」（総額10億円）に続く2例目。「がんばれファンド」はこれまでに16社への投資を実行。出資金をほぼ使い終えたことから、新たなファンドを組成することにした。

ドーガン社は新たなファンドで投資額数百万円の小口案件も手掛ける方針で、投資先企業数として30～50社を想定。投資先には、社外取締役を派

ドーガン管理運営

4地銀ファンド設立

め、従来より浅く広く支援したい」としている。
（永松英一郎）

2012 年（平成 24 年）9 月 29 日（土）
日本経済新聞

4地銀とファンド設立

ドーガン、ベンチャー向け

中小企業支援を手掛けるドーガン・アドバイザーズ（福岡市、森大介社長）は28日、地方銀行4行などと組み、ベンチャー企業向けファンドを設立したと発表した。規模は約11億円。有望な技術やビジネスモデルを持つ事業有限責任組合」は子

ち、設立から間もないベンチャー企業が主な対象。1社当たりの投資額を小口にし、幅広く支援する。

新ファンド「九州アントレプレナークラブ投資」は、完全子会社のドーガン・インベストメンツ（同）が設立した。11億円の資金は十八銀行、筑邦銀行、西日本シティ銀行、豊和銀行の4行が合わせて50%、独立行政法人・中小企業基盤整備機構が50%を拠出。ドーガンはファンドの運営・管理を担う。1社当たりの投資額は500万～1000万円

会社のドーガン・インベストメンツ（同）が設立した。11億円の資金は十八銀行、筑邦銀行、西日本シティ銀行、豊和銀行の4行が合わせて50%、独立行政法人・中小企業基盤整備機構が50%を拠出。ドーガンはファンドの運営・管理を担う。1社当たりの投資額は500万～1000万円

からと小口にし、最大50社程度への投資を目指す。

2012 年（平成 24 年）9 月 29 日（土）
読賣新聞

ベンチャー支援ファンド発足

九州・沖縄・山口の中小・ベンチャー企業を支援するファンド「九州アントレプレナークラブ投資事業有限責任組合」（福岡市）が28日発足した。投資ファンド運営会社のドーガン・インベストメンツ（同）と西日本シティ、十八、筑邦、豊和の4銀行、中小企業基盤整備機構（東京）が総額約11億円を共同出資した。存続期間は10年。新商品の開発や新規の事業展開などに取り組む企業に投資する。

2012 年（平成 24 年）9 月 29 日（土）
毎日新聞

中小企業支援ファンド設立

企業の事業支援などを手がけるドーガン・アドバイザーズ（福岡市）は28日、完全子会社のドーガン・インベストメンツ（同）が創業や新規事業を目指す中小企業を支援する「九州アントレプレナークラブ投資事業有限責任組合」（愛称・九州アントレファンド）を設立したと発表した。西日本シティ銀（同）、筑邦銀（福岡県久留米市）、十八銀（長崎市）、豊和銀（大分市）の4行と中小企業基盤整備機構が出資した。ファンド総額は11億円程度になる。

対象は、新事業や第二の核事業に取り組む九州・山口・沖縄のベンチャー企業や中小企業。株式公開を目指さない企業も支援する。1件当たり500万～3000万円程度で、10年間に最大50社程度の支援を見込む。

地域型
ファンド
参加

創業や新規事業を支援

ファンドは十八銀に加え
筑邦銀行（福岡県久留米
市）、西日本シティ銀行（福
岡市）、豊和銀行（大分市）
の計4行と、中小企業基盤
整備機構が折半出資するな

本県をはじめ九州圏内に
主な拠点があり、優れたア
イデアや技術、ビジョンを

十八銀総合企画部は「将来の地域活性化を担う地場産業の育成に努める」としている。

(河野隆之)

2012 年（平成 24 年）10 月 3 日（水）

大分合同新聞

創業支援 ファンド 豊和銀が出資

豊和銀行は、創業・新規事業の支援を目的とした「九州アントレプレナークラフファンド」に出資した。題克服に向けて、会員組織など交流の場も設ける。

県は本年度、創業の倍増を目指す事業「スタートアップ300」に取り組んでおり、「ファンドは創業者の重要課題である資金調達に役立つ」（商工労働部）と期待している。

ファンドは九州で企業の事業再生などを手掛ける「ドーガン・アドバイザーズ」（福岡市、森大介社長）の子会社が9月28日に設立。総額は約11億円で期間は10年間。中小企業基盤整備機構が50%、豊和と十八（長崎県）、筑邦（福岡県）、西日本シティ（同）の4銀行が計50%を出資している。新商品の開発や新たな事業展開を目指す九州のベンチャー、中小企業に対し、500万円から3千万円を投資。創業時に共通する課